

宮・庄川森林計画区

第四次国有林野施業実施計画書

計画期間 自 平成22年 4月 1日
至 平成27年 3月31日

中部森林管理局

この国有林野施業実施計画（以下「本計画」という。）は、国有林野管理経営規程に基づき、国有林の地域別の森林計画及び地域管理経営計画に即し、森林管理局長が森林計画区域内の管理経営する国有林野の箇所別の伐採、更新等について5年ごとにたてる5年間の計画である。

この本計画の計画期間は平成22年4月1日から平成27年3月31日までの5年間である。

目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2	施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
	(1) 伐採造林計画簿	1
	(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等	1
	(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積	3
	(4) 生産群別の面積等	3
	(5) 標準伐採量	4
	(6) 伐採総量	4
	(7) 更新総量	5
	(8) 保育総量	5
3	林道の整備に関する事項	6
4	治山に関する事項	7
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	8
	(1) 保護林の名称及び区域	8
	(2) 緑の回廊の名称及び区域	13
6	レクリエーションの森の名称及び区域	14
7	その他必要な事項	25
	(1) 施業指標林、試験地等	25
	(2) フィールドの提供	28
	(3) レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法	28

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域
国有林野施業実施計画図による。

2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所
ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別冊の伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha、年)

施業群	面積	施業の方法等		伐期齢 又は 回帰年	
		施業方法	目標とする森林		
小面積分散型	小面積分散伐区 枝打	121.68	育成単層林施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時モザイク的配置となることで、林齢、林相が異なる多様な森林を成立させ、枝打ちにより材の付加価値を高めた森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	ヒノキ 50
	小面積分散伐区	3,033.13	育成単層林施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時モザイク的配置となることで、林齢、林相が異なる多様な森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ ⁶ 60 ヒノキ(旧飛騨川) 65 ヒノキ 75 カラマツ 60
長伐期	10,110.58	育成単層林施業	主伐は、伐期齢のおおむね2倍以上の林齢において行い、成長の旺盛な時期から主伐までの間に成長に応じた間伐を繰り返し、下層植生の発達した森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ ⁶ 120 ヒノキ(旧飛騨川) 130 ヒノキ 150 カラマツ 100	
カラマツ長伐期	98.46	育成単層林施業	同上	80	

(単位：ha、年)

施業群	面積	施業の方法等		伐期齢 又は 回帰年	
		施業方法	目標とする森林		
人工林複層伐	398.18	育成複層林施業	人工林において、複層伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	スギ 80 [60] ヒノキ（旧飛騨川） 85 [65] ヒノキ 95 [75] カラマツ 80 [60]	
人工林長伐期複層伐	71.51	育成複層林施業	木曽ヒノキの代替材を生産する人工林で、複層伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	ヒノキ 180 [150]	
漸伐複層型	人工林漸伐複層型	2,169.80	育成複層林施業	天然林において、漸伐により部分的に伐採し、人為的あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹種及び樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	80 85
	天然林漸伐複層型	4,868.09	育成複層林施業		N 200 L 180
択伐複層型	人工林択伐複層型	5,081.71	育成複層林施業	人工林及び天然林において、択伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹種及び樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	85 (35)
	天然林択伐複層型	2,633.57	天然生林施業		N 200 L 180 (25~35)
その他	39.77	試験地等の設定目的による。			
合計	28,626.48				

(注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。

2 () は回帰年、[] は複層林の初回伐採の伐期齢である。

(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積 (単位：ha)

施業群	上限伐採面積
小面積分散伐区枝打	12.17
小面積分散伐区	202.21
長伐期	337.02
カラマツ長伐期	6.15
人工林複層伐	41.91
人工林長伐期複層伐	3.97
人工林漸伐複層型	175.95
天然林漸伐複層型	
人工林択伐複層型	1,102.18
天然林択伐複層型	

(注) 上限伐採面積は、計画期間(5年)分の面積である。

(4) 生産群別の面積等

(単位：ha、年)

生産群	面積	生産目標等			伐期齢
		樹種	生産目標	期待径級	
優良柱材	49.76	ヒノキ	芯持柱材を主とした生産	22cm	50
一般用材	532.73	スギ	一般建築材を主とした生産	22cm	60
		ヒノキ	芯持柱材や一般建築材を主とした生産	22cm	旧飛騨川 65 75
		カラマツ	一般建築材を主とした生産	22cm	60
人工林漸伐複層型	17.88				80 85
天然林漸伐複層型	143.40				N 200 L 180
天然林択伐複層型	26.22				N 200 L 180
設定外	0.13				
合計	770.12				

(注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。

2 期待径級は胸高直径である。

(5) 標準伐採量

当該計画区の資源の循環利用林はすべて分収造林契約に基づく分収造林及び分収育林契約に基づく分収林であるため標準伐採量は定めない。

(6) 伐採総量

(単位：m³、ha)

区 分		林 地					林 地 以 外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計		
水 土 保 全 林	国 土 保 全 タ イ プ			(2,679.83) 150,958	150,958			
	水 源 か ん 養 タ イ プ	小面積分散伐区枝打		488	488			
		小面積分散伐区		19,977	19,977			
		長 伐 期		125,184	125,184			
		カラマツ長伐期		1,886	1,886			
		人工林長伐期複層伐		370	370			
		人工林複層伐		5,149	5,149			
		人工林漸伐複層型		39,184	39,184			
		人工林択伐複層型		94,618	94,618			
		そ の 他		145	145			
		小 計		(4,066.79) 287,001	287,001			
	計		(6,746.62) 437,959	437,959				
森 林 と 人 と の 共 生 林	自 然 維 持 タ イ プ			(3.24) 225	225			
	森 林 空 間 利 用 タ イ プ			(177.20) 15,255	15,255			
	計			(180.44) 15,480	15,480			
資 源 の 循 環 利 用 林	優 良 柱 材		8,059		8,059			
	一 般 用 材		30,693	2,390	33,083			
	計		38,752	(36.62) 2,390	41,142			
合 計		38,752	(6,963.68) 455,829	494,581	25,419	520,000	520,000	
年 平 均		7,750	(1,392.74) 91,166	98,916	5,084	104,000	104,000	

(注) () 書きは間伐面積である。

(7) 更新総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タ イ プ	水 源 か ん 養 タ イ プ	計	自 然 維 持 タ イ プ	森 林 空 間 利 用 タ イ プ	計		
人 工 造 林	単 層 林 造 成	4.77		4.77				47.79	52.56
	複 層 林 造 成								
	計	4.77		4.77				47.79	52.56
天 然 更 新	天 然 下 種 第 1 類	237.59	238.57	476.16		2.49	2.49		478.65
	天 然 下 種 第 2 類								
	計	237.59	238.57	476.16		2.49	2.49		478.65
合 計		242.36	238.57	480.93		2.49	2.49	47.79	531.21

(8) 保育総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タ イ プ	水 源 か ん 養 タ イ プ	計	自 然 維 持 タ イ プ	森 林 空 間 利 用 タ イ プ	計		
下 刈		66.51	218.12	284.63					284.63
つる切		52.23	120.82	173.05		17.34	17.34		190.39
除 伐		636.35	1,752.33	2,388.68		11.99	11.99		2,400.67
枝 打		57.93		57.93					57.93

3 林道の整備に関する事項

(単位：m)

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	林班・箇所	延長	備考
基幹	改良	折敷地戸谷	92～94 5箇所	100	
		長倉本谷	1026, 1033～1037 4箇所	120	
		子ノ原	1046～1049, 1106, 1107 4箇所	100	
		継子岳	1183, 1184 5箇所	120	
		秋神中之宿	1215, 1233, 1234 4箇所	100	
		切雲ソノボ	2244, 2253～2256 6箇所	160	
		双六細越	2129～2131 6箇所	180	
		笠谷煙滝谷	2142, 2143, 2151 6箇所	200	
		鼠餅福地	2204, 2224, 2225 5箇所	100	
		蒲田左俣	2168, 2172 5箇所	250	
		蒲田右俣	2181 1箇所	50	
		上小鳥水洞	3003, 3012 5箇所	120	
		夏厩大谷	3023 2箇所	100	
		森茂六厩川	3095～3097 4箇所	120	
		舟原山滝ヶ洞(上)	3038, 3144～3147 4箇所	60	
		日照岳	4183, 4186 2箇所	100	
		蛭ヶ野	4171～4173 4箇所	100	
	計		72箇所	2,080	
その他	開設	鈍引沢	1280～1281, 1283～1285	2,500	
	改良	一ツ梨	22, 25 2箇所	50	
		三尾山	48, 49 2箇所	50	
		宮洞第ニ	81 4箇所	100	
		鎌ヶ峯	1170, 1171 2箇所	50	
		ヲハギ	2124, 2125 3箇所	100	
		天生栗ヶ谷	3137～3139, 3159 4箇所	120	
		中の俣	3182 1箇所	50	
		大原谷	4100～4103 7箇所	350	
		軽岡	4133～4135 4箇所	100	
		大瀬戸	4305 1箇所	50	
	計		30箇所	1,020	
合計	開設	1		2,500	
	改良	27	102箇所	3,100	

(注) 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

4 治山に関する事項

(単位：保全施設 箇所、保安林の整備 ha)

位 置	区 分	工 種	計 画 量
宮・青屋(西日向谷)・池ヶ洞(塩蔵谷)・阿多野郷(黒谷第二支溪)・中洞(徳河谷)・野麦(日影沢)・福地(オソブ谷上流)・穂高(穴毛谷上流)・穂高(左俣谷上流)・穂高(白出沢)・穂高(柳谷)・平湯(安房谷)・池本山(下津野)・大谷・森茂・横谷(トウゾウ谷)・滝ヶ洞(小谷)・黒内(ふくろ洞支溪)・舟原山(栃洞谷)・六厩川・野々俣・大白川(間名古屋)・三方崩(弓ヶ洞)・荒谷(白水谷)	保全施設	溪間工	24
池ヶ洞(塩蔵谷)・阿多野郷(黒谷第二支溪)・中洞(徳河谷)・福地(オソブ谷上流)・穂高(左俣谷)・穂高(左俣谷上流)・穂高(白谷)・大谷・森茂・横谷(トウゾウ谷)・大白川(大白川右岸)	保全施設	山腹工	11
西俣・大白川(大白川右岸)・穂高(穴毛谷上流)・穂高(左俣谷上流)・三方崩(弓ヶ洞)・荒谷(白水谷)	保全施設	その他	6
宮・庄川管内の保安林区域内	保安林の整備	保育外	10,828.62
合 計	保全施設	溪間工	24
		山腹工	11
		その他	6
	保安林の整備	保育外	10,828.62

- (注) 1 保全施設の計画量「箇所数」は「単位流域」数を表す。
 2 位置は単位流域を表す。
 3 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

当計画区は貴重な自然環境としての天然林等が多数存在するため、国有林野事業の管理経営との調整を図りつつ適切に保護・保存を図って行くこととする。

また、緑の回廊を設定し、森林生態系の構成者である野生動植物の多様性の保全を図ることとする。

(1) 保護林の名称及び区域

(単位：ha)

種 類		森 林 生 態 系 保 護 地 域			
名 称	新 設 既設別	面 積	位 置 (林 小 班)	特 徴 等	施 業 等
北アルプス 金木戸川・ 高瀬川源流 部	既設	4,452.33	2080～2099	北アルプスを代表する原生的な天然林で亜高山帯から高山帯への推移が顕著である。また、動物の種類も豊富である。	保存地区の森林については、原則として人為を加えずに自然の推移に委ねる。 保全利用地区については、木材生産を目的とする森林施業は行わない。 細部については、「北アルプス金木戸川・高瀬川源流部森林生態系保護地域計画」により実施する。
		保存地区 3,869.75	2081い,2082い,ろ,は 2083い,ろ,は 2084い,ろ,は,イ 2085い,ろ,は,イ 2086い,ろ,は,イ,ロ 2087い,ろ,は 2088い,ろ,イ 2089い,ろ,イ 2090い,ろ,は,イ 2091い,イ,2092い,イ, 2093い,イ,2094い,イ, 2095い,ろ,は,イ 2096い,ろ,イ 2097い,ろ,は,2098い		
		保全利用 地区 582.58	2080全,2081ろ,イ,ロ 2082に,ほ,イ 2083に,イ,2084ロ 2085ロ,2086ハ,ニ 2088ロ,2089ハ,ロ 2096は,ハ,ロ 2097に,ほ 2098ろ,イ,2099い		

(単位：ha)

種 類		森 林 生 態 系 保 護 地 域			
名 称	新 設 既設別	面 積	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
白 山	既設	7,764.00	4339～4358 4365ろ 4366～4371 4372口	ブナやダケカンバなどの原生的な天然林が広く分布しており、当該地を分布限界とする植物も多い。また、動物の種類も豊富である。	保存地区の森林については、原則として人為を加えずに自然の推移に委ねる。 保全利用地区については、木材生産を目的とする森林施業は行わない。 細部については、「白川森林生態系保護地域計画」により実施する。
		保存地区 3,034.84	4342い,ろ,4343ろ,に, ほ,4344ろ,は,4345は, に,4346は,に,ほ,へ 4351い,ハ,口,4352い, イ,4353ろ,に,イ,口 4354い,ろ,イ,口 4356ろ,に,イ,口 4357い,イ,4367い 4368い,ろ,イ,4369い, ろ,イ,4370い,ろ,は,イ,口		
		保全利用 地区 4,729.16	4339い,ろ,イ,4340い, ろ,イ,4341い,ろ,イ 4342は,4343い,は,と, へ,4344い,に,4345い, ろ,4346い,ろ,と,ち,り 4347い,イ,4348い,イ 4349い,ろ,イ,4350い, イ,ハ,口,4351ろ,イ 4352ろ,4353い,は,ほ, と,ハ,二,へ,4354は,に 4355い,ろ,4356い,は, ほ,ハ,4357ろ,口 4358い,ろ,は,に,ほ,イ 4365ろ,4366い,ろ,イ 4367ろ,イ,口,4370に, ハ,4371い,ろ,イ,口 4372口,		
面 積 計		12,216.33			

(単位：ha)

種 類		林 木 遺 伝 資 源 保 存 林			
名 称	新 設 既設別	面 積	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
名古屋 ダケカンバ 5	既設	26.46	2189い	ダケカンバを主とする林分である。	原則として、伐採は行わない。 ただし、保存対象樹種の安定的な存続を図るために必要な場合は、枯損木、被害木の除去を中心とした弱度の択伐を行う。
名古屋 ヒノキ6	既設	8.98	64ろ	天然生ヒノキが群生している。	
名古屋 アカマツ7	既設	4.59	78ほ	天然生で成長・形質ともに優良なアカマツが群生している。	
名古屋 シラベ、アオモリト ドマツ、トウヒ、コ メツガ11	既設	11.81	102に	シラベ、アオモリトドマツ、トウヒ及びコメツガ等が混成している林分である。	
名古屋 スギ12	既設	10.68	4122ほ	当該地固有の希少品種である伏条性の強いムミスギが群生している。	
名古屋 ドロノキ13	既設	6.58	4359ろ	ドロノキを主とする林分として一定のまとまりがあり、全国分布の西端に当たる。	
面 積 計		69.10			

(単位：ha)

種 類		植 物 群 落 保 護 林		
名 称	新 設 既設別	面 積	特 徴 等	施 業 等
万波ブナ林 等	既設	295.84	ブナを主とする林分であり、比較的低い標高に関わらずイワイチョウ、コバイケイソウ等の植生が分布している。	原則として人手を加えず自然の推移に委ねた保護管理を行う。
天生高層湿 原	既設	7.15	高層湿原で、ホロムイソウ、ヒメシャクナゲ、ヤチスゲなどが分布している。	
山中山ミズ バショウ	既設	1.99	岐阜県内の南限に分布しているミズバショウの群落である。	
御岳垂直森 林 帯	既設	394.76 (飛騨川 森林計画 区内を含 む合計 1,934.75 ha)	岐阜県南部において、亜高山帯から高山帯にかけて顕著な推移がみられる林分である。	
御岳オサバ グ サ	既設	18.39	中部地方南西限に分布する貴重群落である。	
胡桃島ハイ マツ等	既設	2.16	亜高山樹林内にハイマツが生育している。	
面 積 計		720.29		

(単位：ha)

種 類		特 定 地 理 等 保 護 林		
名 称	新 設 既設別	面 積	特 徴 等	施 業 等
乗鞍岳	既設	3,292.19	乗鞍岳山頂部に広がる火山群、カルデラ（湖沼）等の特徴ある地形・地質と亜高山帯から高山帯に分布する植生等により構成される生態系、景観等を保護する。	原則として森林施業は行わない。 なお、保安施設事業の実施に当たっては、自然景観に配慮した工種・工法を採用して行う。 すでに乗鞍道路、集団施設地区などの整備が行われている区域であり、入り込み者の自然観察等の教育等の取り組みに配慮する。
面 積 計		3,292.19		

(単位：ha)

種 類		郷 土 の 森			
名 称	新 設 既設別	面 積	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
のりくら	既設	614.86	100い～にイ 101い～とイ～ニ 114い～ハ 115い～チ 116いイ 117いイ	五色ヶ原地区は、乗鞍岳山麓に位置し、ブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹からシラベ、トウヒ等の亜高山樹種で構成され、地元住民が、古くから自然と共に暮らし守ってきたエリアであり、郷土の象徴として保護する。	原則として人為を加えずに自然の推移に委ねる。 具体的には、保護・管理・利用計画書により行うものとする。
面 積 計		614.86			

(2) 緑の回廊の名称及び区域

(単位：km、ha)

種類		緑の回廊			
名称	新設 既設別	延長	面積	位置 (林小班)	特徴等
白山山系 緑の回廊	既設	70	16,937.45 (42,870.27)	4147～4151 4152い～つ 4153い～る 4154い～れ, ハ, ニ 4155～4163 4164い～り, イ 4165～4166 4167い～ち 4168～4215 4324い～へ, 4325 4326い～る 4327～4338 4359い, は～へ, イ, ロ 4360～4364, 4365い, は, イ 4372い, イ 4373～4380	白山山系の国有林内に設定された白山森林生態系保護地域や犀川源流森林生物遺伝資源保存林(近畿中国森林管理局管内)等の保護林を連結し、野生動物の日常行動や季節移動等の経路をつくることにより、分断された個体の交流を促す等、森林生態系の構成者である野生動植物の多様性の保全を図ることを目的とする。 林況は、ブナ、ダケカンバ等の広葉樹の天然林が大半を占めている。 施業等については「白山山系緑の回廊設定方針」による。

(注) () 書きは、庄川森林計画区(中部森林管理局)、加賀森林計画区及び越前森林計画区(近畿中国森林管理局)と合わせた緑の回廊設定総面積である。

6 レクリエーションの森の名称及び区域

(単位：ha)

種 類		自 然 休 養 林			
名 称	新・改 既 設	面 積	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等
白山白川	既設	2,445.33	付表1のとおり	大部分が白山国立公園内に位置し、白水の滝と大白川溪谷及び周辺のブナを主体とする林分が優れた景観を呈しており、ハイキング、キャンプ、登山等に適している。	付表1のとおり
御 岳	既設	1,667.33 (飛騨川 林計画区 内を含む 合計 2,266.04)	付表2のとおり	御岳山の裾野に位置し、亜高山樹種の天然林とカラマツの人工林などからなる森林で、登山、ハイキング、キャンプ、スキー、自然探勝等自然休養の場に適した地域である。 また、ヒューマン・グリーン・プランの指定区域であり、第三セクターにより、整備が進められている。 ○1194、1198、1241は、ハ、1248、1250い～ほ、ち、り林小班は保健機能森林に該当	付表2のとおり
面 積 計		4,112.66			

(単位：ha)

種 類		自 然 観 察 教 育 林				
名 称	新・改 既設別	面 積	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等	
深 洞	既設	217.39	2037 い、に 2038 い、ろ	<p>亜高山針葉樹林帯の下に平原状地形の湿地帯を形成している。</p> <p>湿原特有のミズバショウ・バイケイソウ・リュウキンカ・ニッコウキスゲ等が、優れた景観を呈しており、自然観察に適している。</p>	<p>ミズバショウ、リュウキンカ等の湿性植物が生育する平原湿原及び周囲をアオモリトドマツ、コマツガを主体とする亜高山針葉樹林で構成されている。天然林については、現状維持を基本とする。</p>	天然生 林施業
天 生	既設	240.99	3155 ほ 3156 に 3157 は 3158 全 3159 い、は 4307 よ	<p>天生県立自然公園内にあり、ミズバショウ等高層湿原植物群落がある。これを取り巻くブナを主体とする林分は、野鳥・昆虫等動植物の成育に適した環境にあり、自然観察に適している。</p>	<p>ミズバショウ、ワタスゲ等の湿性植物が生育する標高 1,400m の高層湿原を中心に、その周囲をブナを主体とする天然林で構成されている。登山道及び散策路周辺を含め、天然林については、現状維持を基本とする。</p>	天然生 林施業
乗 鞍	既設	36.68	120 ト、チ、ヌ、 ワ、カ、	<p>中部山岳国立公園内にあり、なだらかな山容と火口湖が特異な風景を呈している。ハイマツ群落や高山植物を間近に見ることができ、北アルプスの眺望にも優れ、自然観察に適している。</p>	<p>乗鞍岳八合目(2,700m)の駐車場付近のハイマツ、キバナシャクナゲ等の群落及び高山植物のコマクサ、チングルマ等が点生する高山帯である。自然観察等の拠点として、景観の維持形成、自然環境の保全を図る。</p>	林地以 外

(単位：ha)

種 類		自 然 観 察 教 育 林			
名 称	新・改 既設別	面 積	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等
舟 山	既設	29.18	1297ち、り 1298り 1299ぬ、る 1300た	<p>位山舟山県立自然公園内にあり、船山山頂付近では矮生化したモミ、ダケカンバ等の中に、ドウダンツツジの老木が点在している。</p> <p>北アルプスの眺望にも優れ、自然観察に適している。</p>	<p>ミズナラ、カンバ等の広葉樹の天然林により構成されている。</p> <p>現状林分の維持を基本とする。</p> <p>天然生 林施業</p>
宮	新設	27.95	69は～ほ、わ 70と、ち 74に、ほ、75は 78は、と、わ、か、 ら、79そ、 ----- 78へ	<p>宮川防災ダム周辺と溪流沿いの、ヒノキ、アカマツ、イチイ等の天然林と人工林ヒノキ等がおりなす自然環境にある。</p> <p>アルプスの眺望にも優れ、自然観察に適している。</p>	<p>スギ、ヒノキ、カラマツ等の人工林で構成されている。人工林は原則として針広混交林に誘導する。</p> <p>育成複 層林施 業 ----- 天然生 林施業</p>
面 積 計		552.19			

(単位：ha)

種 類		野 外 ス ポ ー ツ 地 域				
名 称	新・改 既設別	面積	位 置 (林 小 班)	選 定 理 由	施 業 等	
数 河 流 葉	既設	123.99	3220ほ、へ 3223ろ、は、ほ、へ、 ち、よ、れ ----- 3220と 3223い、に、と、 り～る、わ、か、た ----- 3220イ 3223イ、ロ	スギ・カラマツの人工林とブナ等の天然林で、ハイキングや自然探勝の場として適している。スキー場が開設され利用されている。	スギ、カラマツの人工林とブナ等の天然林から構成されている。人工林については、原則として針広混交林に誘導することとし、天然林については、現状維持を基本とする。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外
			鈴 蘭 高 原		既設	122.81
面 積 計		246.80				

(単位：ha)

種類		風景林				
名称	新・改 既設別	面積	位置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等	
西ウレ 峠	既設	28.18	36と、ぬ～よ、つ	せせらぎ溪谷県立自然公園内にあり、ヒノキ・スギ・カラマツの人工林からなり、林内をとおり「せせらぎ街道」の背景林として適している。	ヒノキ、スギ、カラマツ、の人工林により構成されている。せせらぎ街道（国道257号）の背景林として、人工林は原則として針広混交林に誘導する。	育成複層林施業
馬 狩	既設	472.37	4375い 4376い、ろ 4375イ、ハ、ホ 4376イ	白山国立公園内にあり、ブナを主体とした天然林が、白山スーパー林道の背景林として適している。	ブナを主体としてヒメコマツ、クロベを交えた老齢の広葉樹天然林により構成されている。白山スーパー林道及び三方岩岳の背景林として、道路、歩道沿線及び園地の修景林施業の他は、現状維持を基本とする。	天然生林施業 林地以外
大瀬戸	既設	276.91	4304ち、た～ つ、4305に、ほ ～と、つ、なら、 や、け～こ、て 4306い、へ～ ち、る、つ、む、う、 の、く、け、こ 4307ろ、は 4304は、ね 4305り、わ 4306に、ほ、わ、 れ、や、ま、ふ 4304イ、チ	新緑から紅葉にかけての森林景観、滝のある溪谷美は、国道の背景林として適している。	カラマツ、スギ等の人工林とブナを主体とする天然林により構成されている。国道360号線の背景林として、道路、歩道沿線の修景林施業の他、人工林については、原則として針広混交の大樹の森に誘導するとともに、天然林については、現状維持を基本とする。	育成複層林施業 天然生林施業 林地以外

(単位：ha)

種 類		風 景 林				
名 称	新・改 既設別	面 積	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等	
大日岳	既設	407.94	4165た、れ ----- 4165へ、つ 4170り、る 4174は、4175 は、4177は 4178ろ、は 4179は ----- 4170イ、4174 イ、4175イ 4177イ、4178 イ、4179イ 4183イ、4184 イ、4188イ 4189イ 4190イ	大部分が白山国立公園内に位置し、ブナ・ミズナラ等からなる天然林は、大日ケ岳への登山道、白山への縦走路の近景林として適している。	ブナ、ミズナラ等からなる天然林で構成されている。大日ケ岳への登山道の近景林として、登山道沿線の修景林施業の他は、天然林については、現状維持を基本とする。	育成複層林施業 天然生林施業 ----- 林地以外
野 麦	既設	55.49	1141は ----- 1137ろ、1140 ろ、1141に 1142ろ 1143ろ	野麦峠の周辺に位置し、コメツガ、シラベ等亜高山樹種の天然林からなり、県道の背景林として適している。	シラベ、コメツガ、トウヒ等からなる天然林で構成されている。県道の背景林として、道路、歩道沿線の修景林施業の他、人工林については、原則として針広混交に誘導するとともに、天然林については、現状維持を基本とする。	育成複層林施業 天然生林施業
面 積 計		1,916.58				

(単位：ha)

種 類		風 致 探 勝 林				
名 称	新・改 既設別	面 積	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等	
穂 高	既設	330.54	2172に、ほ、よ 2173ろ～へ 2181ほへ、ち、ぬ ----- 2166ろ～に 2168ろ、に～と 2169は～と 2171は、に 2172ろ、は、へ ～ぬわ、か、そ、 つ～な 2181い～に、 と、り、る、わ～た ----- 2172イ 2181イ、ロ	中部山岳国立公園内にあり、北アルプスの岐阜県側登山口となっている。ブナを主体とする林分が優れた自然景観を呈しており、ハイキング等自然探勝に適している。	大部分をブナを主体とする天然林及び一部高齢級のヒノキの人工林により構成されている。人工林については、原則として針広混交林に誘導するとともに、天然林については現状維持を基本とする。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外
平 湯	新設	41.34	2195は、り ----- 2195と、ち、る 2196は～ほ	中部山岳国立公園内にあり、平湯温泉の後背林で針広混交した天然林となっている。林内には巨樹・巨木の「平湯大ネズコ」や、多様な樹種からなる森林で、自然探勝の場として適している。	シラベ、トウヒ、コメツガ等から構成されている。天然林については、現状維持を基本とする。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業
面 積 計		371.88				

付表 1

白山白川自然休養林のゾーン区分別の林小班及び施業等一覧表

(単位：h a)

ゾーン区分	面積	関係林小班	施業等	
自然観察教育ゾーン	731.56	4344い、に、4345い、ろ、4346い、ろ、と 4349い、ろ、4350い、4353は、へ 4354は、に、4355い、ろ ----- 4350ハ、4353ニ	白水湖の周囲のブナ、ミズナラを主体とする天然林により構成されている。天然林については、現状維持を基本とするとともに、道路沿線等については、修景林施業により景観の確保に努める。	天然生林施業
				林地以外
森林スポーツゾーン	125.99	4351ろ、4352ろ、4353い、ほ、と ----- 4351イ、4353ハ	白水湖畔のブナ、ミズナラを主体とする天然林により構成されている。天然林については現状維持を基本としつつ、キャンプ場や園地との調和を図ることとする。	天然生林施業
				林地以外
風景ゾーン	1,587.78	4334は、4335ろ ----- 4334い、ろ、に、ほ、4335い、は、に 4336い、ぬ、4356い、は、ほ、4357ろ 4358い～ほ、4359い、は～へ、4360い、ろ ----- 4356ハ、4357ロ、4358イ、4359イ、ロ	白水湖、大白川溪谷の背景林として、ブナ、ミズナラを主体とする天然林により構成されている。天然林については、現状維持を基本とするとともに、道路沿線等については、修景林施業により景観の確保に努める。	育成複層林施業
				天然生林施業
				林地以外

付表 2

御岳自然休養林のゾーン区分別の林小班及び施業等一覧表

(単位：h a)

ゾーン区分	面積	関係林小班	施業等
自然観察教育	139.37	1248は、ほ、へ、ち、1250ろ、に、ち ----- 1195ろ、1241は、へ、1248い、ろ、に、と、り 1250い、は、ほ、り	カラマツ人工林については、混入している広葉樹の保残を図り針広混交林に誘導する。シラベ・コメツガ等亜高山樹種の天然林については、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。 ○1241は、へ、1248、1250い～ほ、ち、り林小班は保健機能森林に該当
森林スポーツゾーン	142.00	1194い～は、ほ～ち、れ 1198い、ろ、に ----- 1194に、り、ぬ～た 1198は	カラマツ人工林については、混入している広葉樹の保残を図り針広混交林に誘導する。天然林については、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。 ○1194、1198林班は保健機能森林に該当
野外スポーツゾーン	1,385.96	1188ろ～へ、1189ろ～と、ぬ、る、か、1190ろ～に、と、ち、た、1191い、と、り、1192と、1195い、に、と、れ、そ、ね～ま、み、し、1197ろ～へ、1199い、1200い、ろ、に～へ、ち～ぬ、た、そ、む、の、く、ま～ふ、え、1201い、は～ち、1202い、ろ、に、1237ろ、は、1238い、ろ、に～へ、1239い、ろ、に～へ、ち、り、1241い、ろ、ほ、1242い、は、ぬ、1246ろ、は、ほ、ち、ぬ、わ、か、1247い、に、わ、そ、1251い～は、ち、ぬ～か、へ、1253い、ろ、に～へ、ち～る、1254い～は ----- 1186い、は～ほ、1187い～ぬ、1188い、わ～ね 1189い、ち、り、わ、よ、た、1190ほ、へ、り、よ、れ、1191ろ～へ、ち、ぬ～れ、1192は～へ、1195は、ほ、へ、ち～た、つ、け～め、1196い、は、と～る、わ、へ、1197い、1200は、と、る、わ～よ、れ、つ～ら、う、お、こ、て、1201ろ、1202は、1237い、に、1238は、と～た、1239は、と、1241に 1242ろ、に～り、る、1243い～ほ、ぬ、る、1244い、に、ほ、1245い、1246い、に、へ、と、り、る、1247ろ、は、へ～る、か～た、1250と、ぬ、へ 1251に、ほ、と、り、1252い、1253は、と 1254に～へ	カラマツ人工林については、混入している広葉樹の保残を図り針広混交林に誘導する。シラベ・コメツガ等亜高山樹種の天然林については、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。

(単位：h a)

ゾーン区分	面積	関係林小班	施業等
		1186口、1187イ、口、1190イ、1191イ、口 1192イ、1195イ、口、1196ハ、ニ、口、1197 イ、1200イ、ハ、ニ、ホ、口、1238イ、1243口1 244口、1253イ、口、	林地以外

7 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

(単位：h a)

種 類	名 称	設定年	面 積	位 置 (林小班)	備 考
施業指標林	複層林施業指標林	H 4年度	3.64	2224は	列状間伐及び複層伐、植栽により樹種転換を図りつつ複層林造成を行うための指標とする林分である。
	間伐推進施業指標林	S 61年度	2.00	1232へ	市場価値の高い材木を収穫する間伐及び残存林木の成長の推移を観察し、今後の間伐技術の向上の指標になる林分である。
		S 16年度	0.96	2220ほ	市場価値の高い材木を収穫する間伐及び残存林木の成長の推移を観察し、今後の間伐技術の向上の指標とする林分である。
	広葉樹施業指標林	H 4年度	11.33	3002ち	壮齢広葉樹林において密度調整等の保育管理を実施して、有用広葉樹施業の指標とする林分である。
		H 4年度	9.22	11り	
		H 4年度	1.98	1138か	
	前更皆伐天然下種更新施業指標林	S 61年度	5.92	1138か	伐採後に後継樹を発生・生育させることにより、更新を確実にを行うための指標になる林分である。
		S 59年度	8.73	3170に 3137り	
		S 59年度	7.08	4186ね	
	ブナ地帯天然更新施業指標林	S 51年度	3.75	3175う、の	ブナ地帯における天然更新技術の確立に向けて、収穫から更新に至る技術体系の検証等の指標とする林分である。
		S 51年度	0.19	3175く	
		S 49年度	6.84	4184に	
	亜高山地帯天然更新施業指標林	S 50年度	19.00	1179ほ～ぬ 1180ち～る	亜高山地帯針葉樹林（ササ型林床）における天然更新の確立に向けて、収穫から更新に至る施業の指標になる林分である。

(単位：h a)

種 類	名 称	設定年	面 積	位 置 (林小班)	備 考
試 験 地	福地スギ人工林収穫試験地	S 14年度	2.56	2201と	成長量、収穫量、その他の資料を収集し林分構造の推移を解明する。
	大谷スギ人工林収穫試験地	S 43年度	0.53	3069ろ	
	一ツ梨ヒノキ人工林収穫試験地	S 42年度	1.05	23は	
	一ツ梨カラマツ人工林収穫試験地	S 42年度	1.52	23に	
	ブナ二次林成長量調査	H 3年度	1.50	3170ろ 3172れ	天然更新したブナ林の成長量を調査し、施業の参考とする。
	大日ブナ天然生林林分成長量固定調査地	S 28年度	1.76	4172と	天然林における成長量、枯損量等の資料を収集し、林分構造の推移を解明する。
	大白川ブナ天然更新試験地	S 45年度	48.20	4336ろ	ブナの天然更新について更新状況の追跡調査を行い施業の参考とする。
次代検定林	関名第7号	S 52年度	1.54	15と内	精英樹クローンの交配種子を用いて養成した苗木を植栽し、精英樹の遺伝的素質を検定するための林分である。
	関名第9号	S 52年度	0.57	50は内	
	関名第21号	S 56年度	0.57	88り内	精英樹選抜による育種効果を十分に発揮させるため、現在の育種区を見直して行くことを検定するための林分である。
	関名第25号	S 63年度	0.53	4118ろ内	精英樹相互間の人工交配によって得る交配家系の生育結果から、各形質の遺伝様式を検定するための林分である。
	関名第19号	S 55年度	1.08	1178た	精英樹クローンの交配種子を用いて養成した苗木を植栽し、精英樹の遺伝的素質を検定するための林分である。

(単位：ha)

種 類	名 称	設定年	面 積	位 置 (林小班)	備 考
遺伝子保存 林	カラマツ	S 46年度	0.40	3012は	林木育種事業を計画的能率的に実施するため、現存する林木の優良遺伝子群を確保・保存し、遺伝子補給源として活用する林分である。
	スギ	S 53年度	2.00	3041リ	
	スギ	S 53年度	2.40	3225お	
	ヒノキ	S 44年度	2.00	67か	
	アカマツ	S 47年度	2.02	83は	
	カラマツ	S 41年度	2.34	4139よ	
	カラマツ	S 42年度	2.35	4138リ	
	スギ	S 46年度	2.00	4104む	
	シラカンバ	S 39年度	7.30	1230い	
	カラマツ	S 46年度	3.00	1170ほ	
精英樹保護 林	スギ古川1号	S 33年度	0.25	3010へ	現存林木の中から成長、形質の特に優れた個体を精英樹として選出し、それらを保護・保存するための林分である。
	スギ古川4号	S 41年度	0.28	3214る	
	スギ古川5号	S 41年度	0.27	3214つ	
	スギ古川6号	S 41年度	0.20	3214わ	
巨樹・巨木	平湯の大ネズコ	H 12年度	(0.94)	2195と内	通達「巨樹・巨木に係る自主的な保全活動の推進について」により選定された、巨樹・巨木である。 () 書きは、該当する林小班的面積。
	宮の大イチイ	H 12年度	(8.63)	64ろ内	
	荘川のヒメコマツ	H 12年度	(0.76)	4123や内	
	荘川のヒノキ	H 12年度			
森林施業モデル林	水源かん養タイプモデル林	H 12年度	5.73	61リ	公益的機能重視の森林施業の取り組みを国民に分かりやすくアピールするモデル林である。

(2) フィールドの提供

ア 遊々の森

(単位：ha)

名 称	面積	位 置	設 定 の 目 的 等
遊々の森 (平成15年度設定)	9.59	2172に、る、か 2195は、に、と、ち	協定相手方：栃尾小学校 協定年度：平成20年度 目 的 国有林の豊かな森林環境を子供たちに提供して、様々な自然体験や自然学習を進めていくため、地元小学校と協定を締結し、「遊々の森」を設定した。
源流の森 (平成20年度設定)	124.41	56ろ、は、61り、65に、く、イ、ロ 69は、に、ほ、わ、70と、ち、74に、ほ 75は、78は、へ、と、わ、か、ら、79そ	協定相手方：高山市長 協定年度：平成20年度 目 的 国有林を体験林業、自然観察等の多様な体験の場として活用を図るため設定。
計	134.00		

イ その他

(単位：ha)

名 称	面積	位 置	設 定 の 目 的 等
山のフィールドミュージアム (平成17年度設定)	138.85	2179い、に、は 2185い、2186い 2189イ、2191い、ろ	協定相手方：山の自然文化研究センター 協定年度：平成17年度 目 的 体験林業、自然観察会自然観察道の整備を通森林学習等の推進に資するため設定。
計	138.85		

(3) レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

(単位：ha)

対象団地	面積	位 置 (林小班)	施 業 等
宮	6.37	78り	宮自然観察教育林に隣接し、林齢30年生のスギ、ヒノキ人工林で構成されている。間伐を繰り返しながら針広混交林に誘導する。